

マーケットの動き（2023年11月13日～11月17日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。14日発表の10月米国CPI（消費者物価指数）が市場予想を下回ったことから、金融引き締め長期化観測が後退し米国債券は買われました。その後も、インフレ鈍化を示す米国経済指標の発表が相次ぎ、長期金利は一時4.37%まで低下しました。欧州国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

投資環境見通し（2023年11月）

長期金利は、米国ではさらなる上昇は限定的、欧州（ドイツ）では低下圧力がかかりやすい

米国：堅調な米国景気を背景とした、FRB（米国連邦準備制度理事会）による金融引き締めの長期化観測が長期金利の上昇圧力とみられますが、インフレ見通しを考慮すると、足元の長期金利上昇には過熱感がみられることから、長期金利のさらなる上昇は限定的とみています。

欧州：インフレ率については低下傾向が緩やかとみられるものの、ECB（欧州中央銀行）はこれまでの連続利上げの効果を見極める姿勢を示していることに加えて、ユーロ圏景気の減速懸念もあり、ドイツ長期金利は低下圧力がかかりやすい状況が続くとみています。

	11月17日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.44	▲0.17	▲0.39	0.87	0.66
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	562.62	0.70%	3.75%	7.34%	8.14%

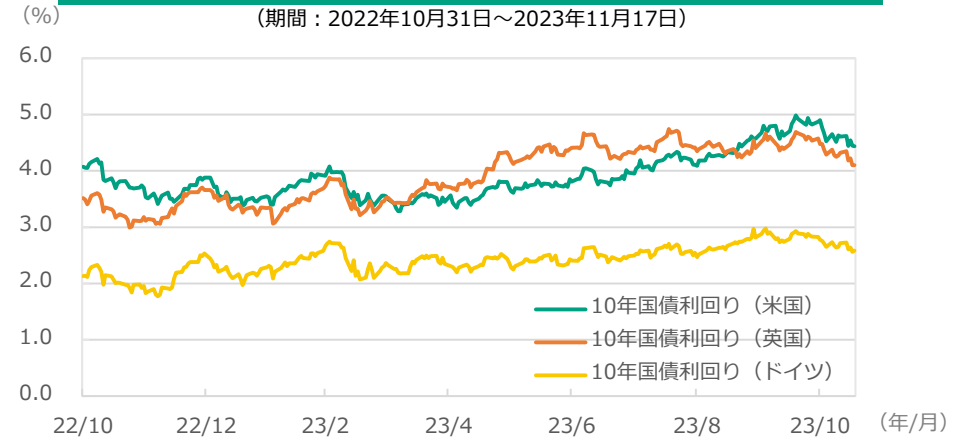
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202311_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2022年10月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成